

国東半島・宇佐の文化と観光を語るシンポジウム

「満月の夜、両子寺で……」

10月31日（水）、安岐町の両子寺で、宇佐市、豊後高田市、姫島村、国東市、杵築市、日出町の6市町村長が一堂に会して、文化や観光について話し合うシンポジウムが開催されました。国東半島・宇佐の文化を守る会（会長・永松博文豊後高田市長）が主催するイベントで、会場には観光や文化財関係者など約150人が集まりました。

会長の永松市長が「宇佐・国東半島の市町村長全員が集まる初のシンポジウムです。観光振興に向けておおいに語り合いまじよう」と歓迎のあいさつ。続いて、アドバイザーの森竹嗣夫県観光・地域振興局長が「広域的な取り組みの中で、地域のすばらしい観光資源にさらに磨きをかけ、いっそう魅力的な観光地となるよう期待しています」とあいさつしてシンポジウムがスタートしました。



第1部

「国東半島・宇佐の文化・文化財の魅力」

第1部では、RKB毎日放送の納富昌子さんと、彫刻家であり、奈良県のマスコットキャラクター「せんとくん」のデザイナーでもある東京芸術大学大学院教授の簀内斗司さんとの対談が行われました。

対談では、簀内教授が初めて宇佐・国東半島を訪れ、神社仏閣を回ってみて、奈良県の飛鳥と同じような雰囲気を感じたことや、神仏習合を日本人の本来の信仰のあり方だと感じたこと、また、観光



(左から) 簀内さん、納富さん

第2部

6市町村長が語る

「各市町村が持つ文化と観光の魅力」

資源としての文化財保護の重要性などを話しました。

第2部では「わが市・町・村の自慢」として6市町村長が、それぞれの文化と観光の魅力について紹介しました。

三河明史市長は、両子寺や文殊仙寺、ケベス祭り、修正鬼会などを紹介し、「仕事に疲れた都会の方が、国東の寺々を回りながら、ゆったりとした時間の中に身をおいて、おいしいものを食べ、元気を回復して日常に帰っていく。そんな国東に多くの方に来てもらいたいです」と国東をアピールしました。

続いて、納富さんの司会で、「国東半島・宇佐の真の魅力」について議論を進めていきました。

司会 この地域に全国から人々が来てもらうために、どのようにアピールしていくべきか？ また、連携のあり方は？